平安文学の至宝を高精細カラー版で刊行！

尊経閣善本影印集成

平安文学

第十二輯

全10冊

★三ヶ月毎配本
★各冊分売可！

前田育徳会尊経閣文庫 編

【編集委員・解説】
鶴見大学教授 伊倉史人・日本大学教授 久保木秀夫・鶴見大学名誉教授 高田信敬

2025年12月刊行開始！

【内容見本】

93 【国宝】土佐日記 藤原定家筆

94・95 【重要文化財】枕草子 一・二

96～102 源氏物語 一～七
【重要文化財】定家本／伝為家・為氏筆本／伝国冬等筆本／源氏物語釈／源氏物語系図／原中最秘抄

八木書店
YAGI BOOK STORE LTD.

SONKEIKAKU ZENPON EIINSHUSEI
HEIANBUNGAKU
A Facsimile series of important classics
in the Sonkeikakubunko.

刊行の辞

前田育徳会尊経閣文庫 理事長　石田寛人

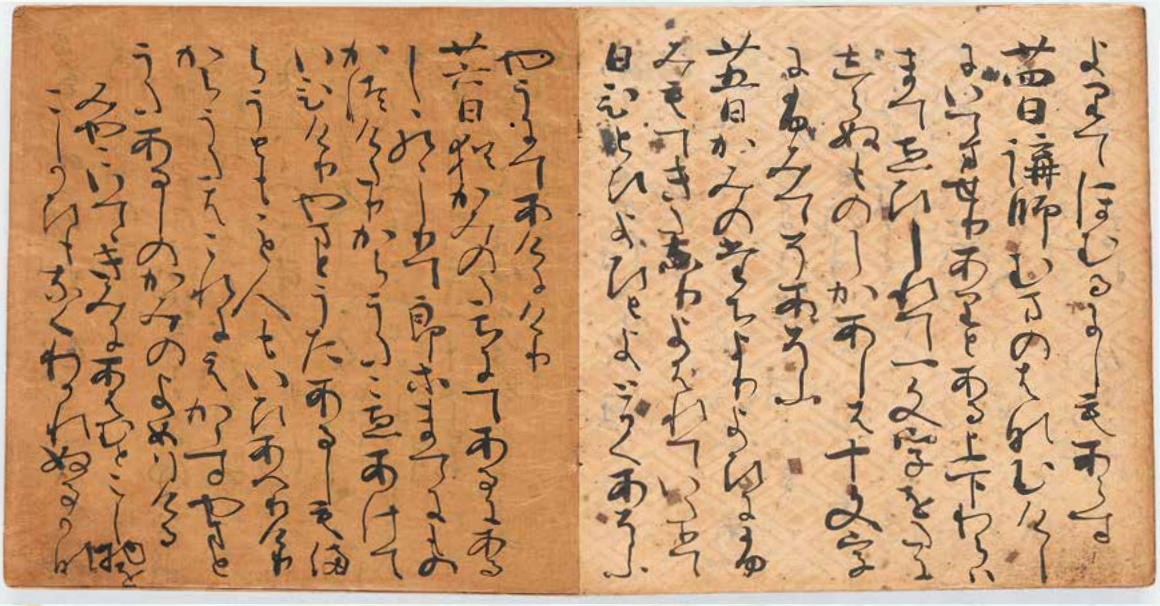
前田育徳会尊経閣文庫は、大正十五年（一九二六）二月二十六日に、前田家第十六代御当主であった前田利為侯が設立した公益財団法人です。利為侯は大正十二年の関東大震災により多くの文化財が焼失したことを目の当たりにして、前田家が所蔵する貴重な文化財を後世に確実に伝えることを意図して財団を創設しました。

当初財団の目的は、加賀前田家に伝来する貴重な古典籍を原装複製して研究機関等に広く無償頒布することにありました。その一環として『尊経閣叢刊』が刊行され、その数は大正十五年六月の『古語拾遺』から昭和二十七年七月の『建治三年記』まで六十四点に及び、現在でも国文学・歴史学などの研究資料として広く活用されています。

この間、財団は前田家より所蔵文化財の寄贈を受け、その保存管理が主要な事業になりましたが、平成に入って『尊経閣叢刊』を引き継ぐ複製刊行事業が企画され、八木書店の御協力を得て、『尊経閣善本影印集成』の編纂刊行が開始されました。平成五年（一九九三）十二月の第一輯第一冊『西宮記』の刊行以来、専門研究者の御尽力を賜りながら、全十一輯計九十二冊が刊行されています。

このたび、『尊経閣善本影印集成』第十二輯として、財団が所蔵する平安文学の代表的作品「土佐日記」「枕草子」「源氏物語」の貴重な写本九点を、高精細カラー版で影印刊行することになりました。特に、国宝「土佐日記」及び重文「源氏物語　定家本」の二点は、原寸大にてご覧いただけます。この出版を契機として、国文学をはじめとする研究の進展に寄与できれば幸甚に存じます。

最後に、第十二輯の編集委員及び解説執筆をお引き受け下さった伊倉史人先生、久保木秀夫先生、高田信敬先生、『尊経閣善本影印集成』刊行継続に御理解・御協力下さった八木書店に感謝申し上げます。



土佐日記　藤原定家筆【国宝】

尊経閣文庫について

「尊経閣文庫」は正式には公益財団法人前田育徳会の通称である。前田育徳会の前身である育徳財団は、大正十五年（一九二六）二月二十六日、加賀前田家第十六代当主前田利為により設立された。「尊経閣文庫」は、収蔵品の中核ともいうべき第五代当主前田綱紀の蔵書名「尊経閣蔵書」に因んで名付けられたとされる。文庫が収蔵・管理する文化財は、大別して美術工芸品・典籍文書類・建造物から成り、そのうち国指定文化財は、国宝二十二件・重要文化財七十七件を数え、わが国の特殊図書館（古典文庫）の中では質量ともに群を抜いている。架蔵する典籍文書類は、国書約七千五百部、漢籍約四千百部、古文書約三千五百点を数え、一定条件のもとで研究者の閲覧に供している。

第十二輯　平安文学
―厳選された至宝の古典籍を間近に―

日本大学教授
久保木秀夫

尊経閣文庫に収蔵されている古典籍群なくして平安文学研究、引いては日本古典文学研究は成り立ち得ない。今、例えば『土佐日記』『枕草子』『源氏物語』という、わずか三作品の名を掲げるだけで、それは異論なく受け入れられるに違いなかろう。

精巧にして稀覯を以て知られる『尊経閣叢刊』が、一九二六年に刊行開始されてからちょうど百年、『土佐日記』『枕草子』を含んだ同叢刊の各解題も、その後の長きに亘る諸先学の研究成果を反映させて、批判的、建設的、徹底的に見直されて然るべき段階となっている。

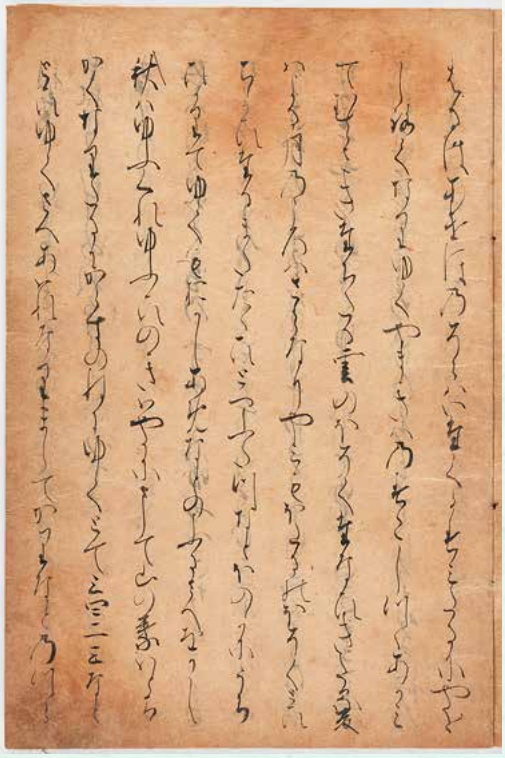
また『尊経閣叢刊』には収められなかった『源氏物語』定家本の花散里・柏木両巻も別途複製刊行され、研究上不可欠な資料として活用され続けているが、モノクロ印刷のその複製本では、墨色の違いその他の書誌情報を厳密に判別することは、実は非常に困難だった。

このたび右三点を含めた、尊経閣文庫蔵の平安文学に関わる逸品中の逸品、重要極まる古典籍九点が、高精細カラー版で、ついに新たに影印化される。加えて最新の研究成果を踏まえての、詳細な解題もそれぞれに備わる。結果的に『源氏物語』関連書目が中心となったが、厳選に厳選を重ねた上でのラインナップとなっている。至高の古典籍の数々を、誰しもが親しく間近に閲覧できるという、この上ない機会が提供される。

各作品に関する研究は言うに及ばず、書誌学・文献学・古典学・書学その他の諸分野に益するところ多大であろう。ほんの一例、『源氏物語』定家本の場合であれば、現存五帖の影印すべてがこれで備わったということになる。また『土佐日記』定家筆本は、紀貫之自筆本の復元に際し重要な役割を果たす一方で、奇跡的と言ってよいほどの条件が揃わなければ、平安文学の作者自筆本の復元などは、実際には極めて困難なのだという冷徹な現実を突き付けもする。対象に厳密であろうとし、方法論に自覚的であろうとする研究者必備の書である。

本影印シリーズに収められる書目それぞれが、かけがえのない個性を有する。しかしその個性を見極め、これまで以上にどれだけ伸ばしていけるかは、本影印を熟視熟読する諸氏の手に委ねられている。古典籍一点一点につき、着眼点を異にすれば異にするだけの論点が浮上してくる。本影印シリーズには様々な研究可能性がある。

源氏物語 定家本【重要文化財】



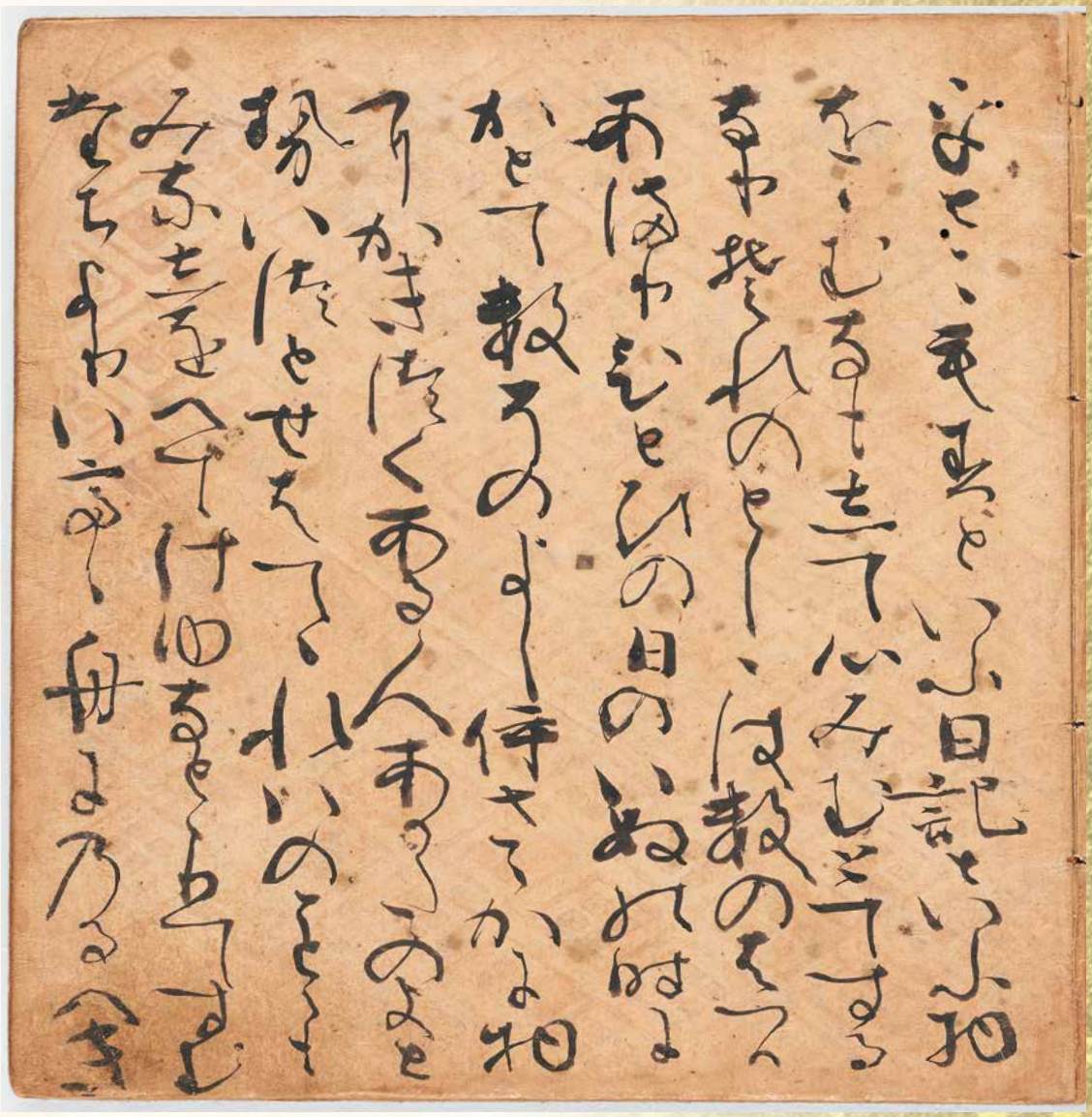
枕草子【重要文化財】

⑨③

土佐日記

藤原定家筆　一帖
文暦二年（一二三五）写

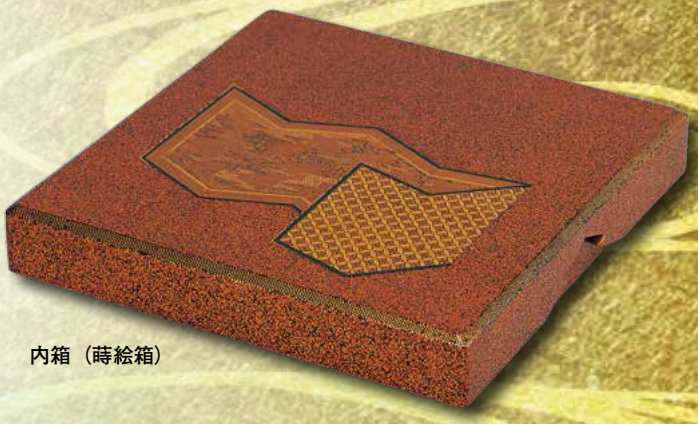
【国宝】



貫之自筆の『土佐日記』を定家が書写、巻末に貫之の筆跡を臨模した重要資料を原寸大で影印

〔解説〕伊倉史人

文暦二年（一二三五）藤原定家は蓮華王院に伝来した紀貫之筆本を書写する。七十四歳という老齢を押して二日間のうちに写したという。その奥書には、装丁、料紙、紙数、法量、書写の形式などが記されており、貫之自筆本の姿を彷彿とさせる。また、巻末に模写された貫之の筆跡は、貫之の自筆資料が確認されていない現在極めて貴重。定家息為家が貫之自筆本を忠実に書写しているのに対して、本書には独自の校訂が加えられていて、定家が『土佐日記』をどう読もうとしていたのか、知ることができる。仮名遣いも改められており、定家仮名遣いの研究上、重要な資料となっている。



内箱（蒔絵箱）

土佐日記　紀貫之（平安時代前～中期の歌人）作。土佐守の任期を満了した貫之が、承平４年（934）12月21日に土佐国府を出、翌年２月16日に帰京するまでの行程と感慨とを、土佐守に随行する女性に仮託して記した、日記体の紀行文。

⑭・⑮

枕草子

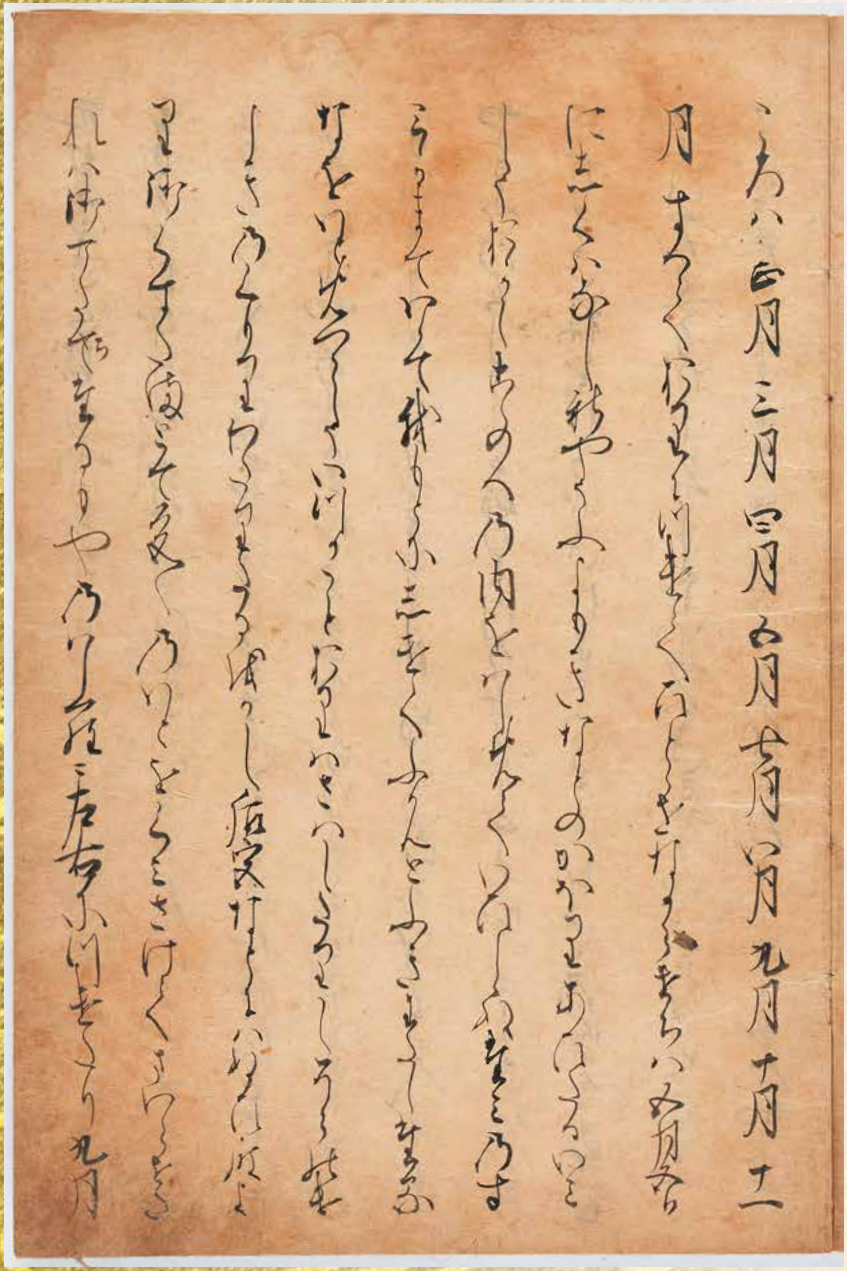
一・二　四帖

鎌倉時代中期写　【重要文化財】

平安期に遡る可能性を秘めた多くの独自本文を有する古写本

〔解説〕久保木秀夫

伝二条為氏筆、鎌倉時代中期の書写。本文異同の錯綜極まる『枕草子』諸本にあって、定家本（三巻本）・能因本・堺本と共に一種を成すのが、まさに今回影印化される尊経閣本、通称前田家本である。他の三種のいずれとも異なる独自本文を大量に有し、かつ同種の伝本は一本もないという、天下の孤本として比類なき貴重さを誇る。現存の四半本四帖はそれぞれ「は型」章段・「もの」型章段・随想的章段・日記的章段でまとめられ、各帖内部でもかなり整然とした章段配列とされている。かつ改行の仕方や項目の配置の仕方、字間の取り方といった当該本の書写形式が、そのまま本文・章段・構成等の解釈や把握に結びついていくところも存する。換言すれば活字化・校訂化される以前の当該本の姿をよくよく観察・検討・考察等していくことによって、諸本中に屹立する「前田家本」の深い理解が初めて可能になるはずだということである。



内箱（蒔絵箱）

枕草子　清少納言（平安時代中期の随筆家、歌人）による随筆。一条天皇の中宮・皇后である藤原定子に仕える後宮生活における体験・見聞・感想などを、300余りの章段に分けて記す。鋭敏な知性と美的感覚が随所に見える。

⑯～⑫

源氏物語

一～七

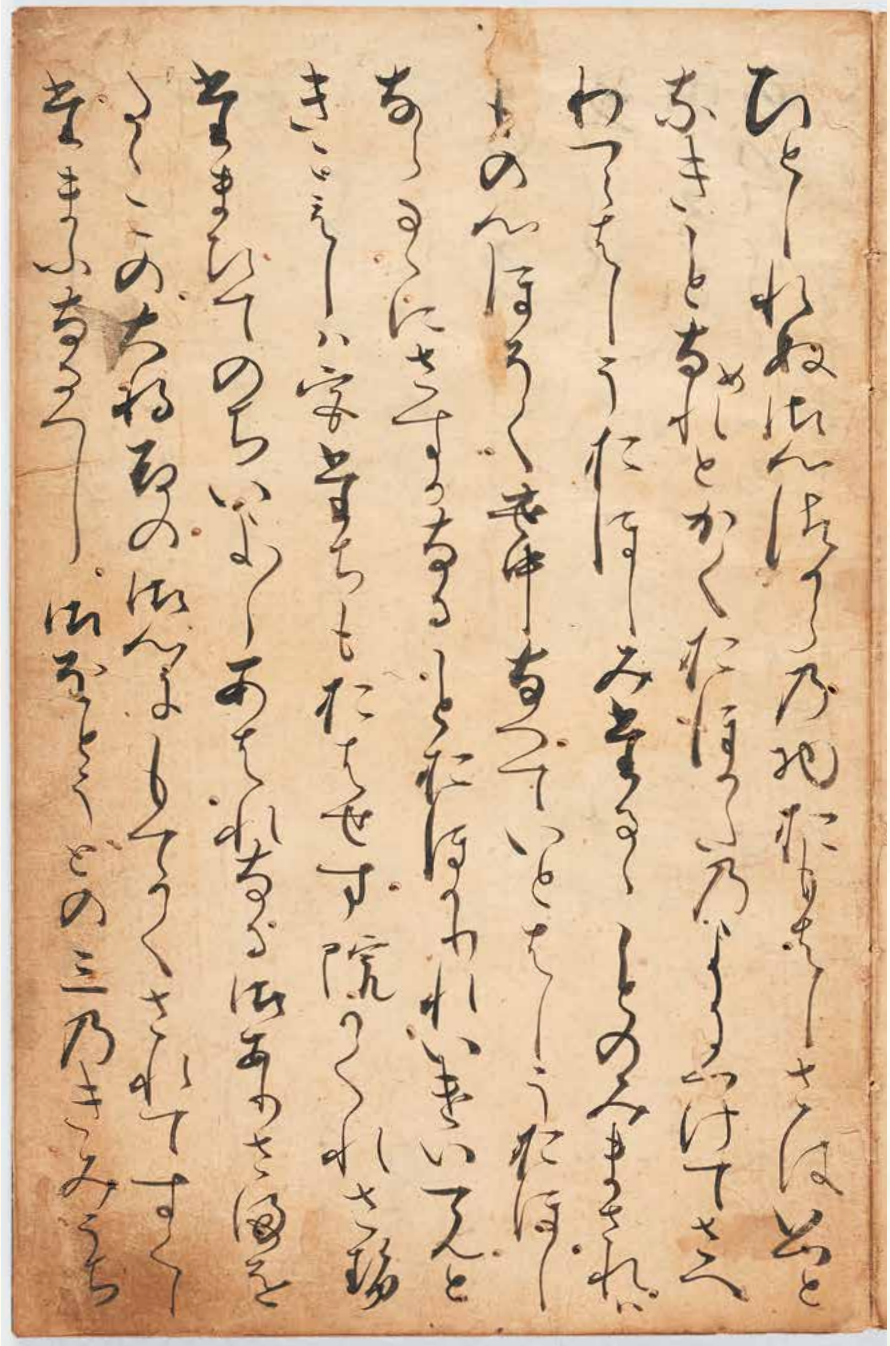
定家本／伝為家・為氏筆本
伝国冬等筆本／源氏物語釈
源氏物語系図／原中最秘抄

一 定家本

鎌倉時代前期写【重要文化財】

青表紙本系統の源流！
最重要古写本を原寸大で影印

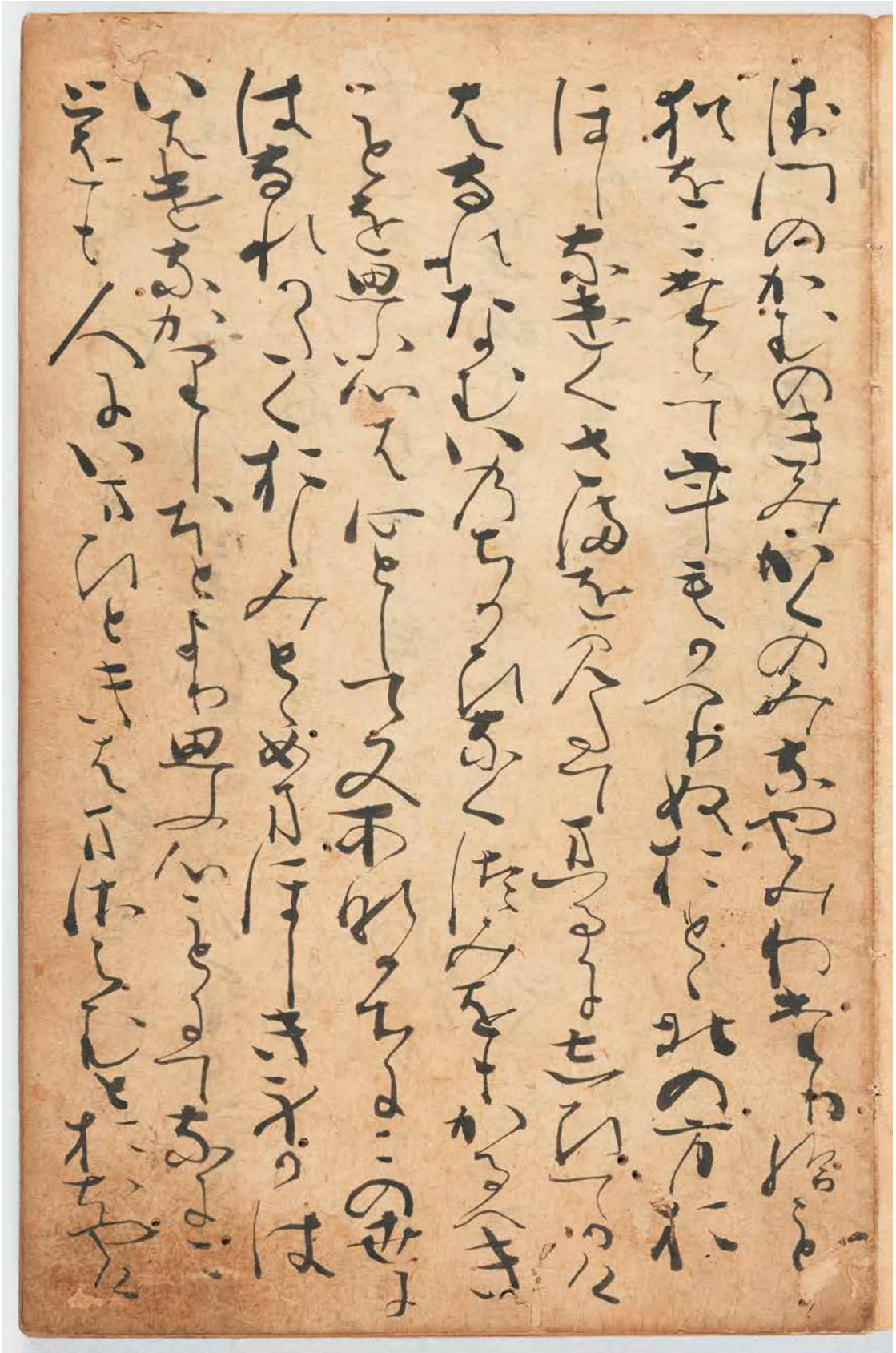
〔解説〕高田信敬



花散里

花散里・柏木の二帖。青表紙本系統の源流の一つであるのみならず、あまたの『源氏物語』諸本中書写時期・書写者の判明する最古写本として価値が高い。高解像度の影印により書き入れ・訂正等、書物の細部にわたる様態が確認でき、『源氏物語』本文の分析や古典学者藤原定家の書写活動を具体的に解明する上で大きな意義がある。なお書誌学的徴証から、若紫・花散里・行幸・柏木の四帖が過去のある時期に一括保管されていたことがわかり、柏木の料紙検討によって、少なくともさらに未知の一帖を加えた五帖がまとまっていたことを推定できる。

源氏物語　紫式部（平安時代中期の物語作者、歌人）作の長編物語。全54巻から成り、主人公光源氏の恋愛と栄華の生活を描く第一部、源氏苦悩の晩年を描く第二部、源氏死後の縁者たちの人生を描く第三部におよそ分けられる。

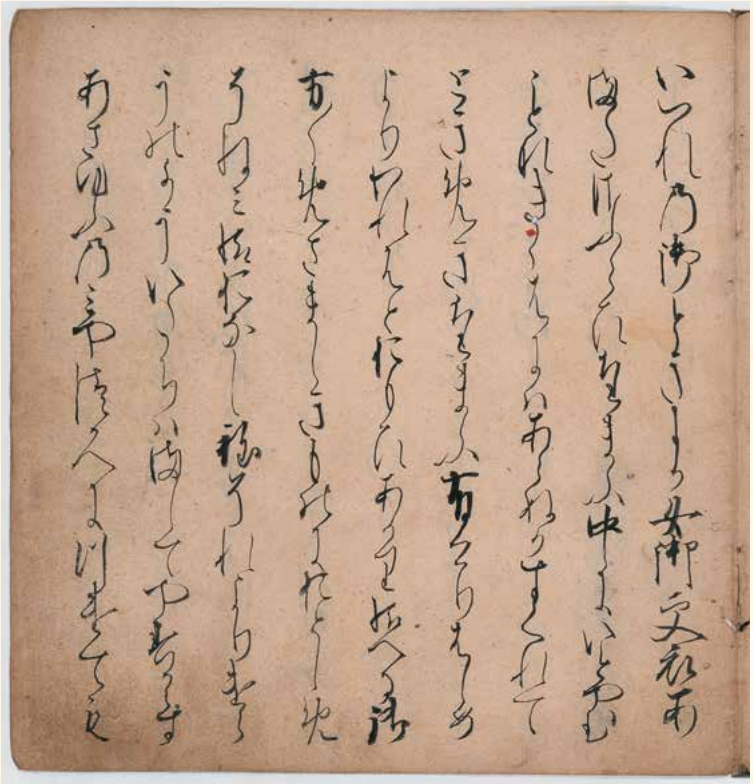


（1オ）

二・三 伝為家・為氏筆本

〔解説〕高田信敬

伝為家筆本＝鎌倉中期の古写本、青表紙本七帖・河内本五帖
伝為氏筆本＝特異な装訂の古写本、鎌倉中期の青表紙本一帖



源氏物語 伝為家筆本

既に簡潔な紹介と校合による本文の提示は行われているが、典籍それ自体の具体相把握や本文・書き入れ・訂正等の確認も不可能であったので、高水準の複製により飛躍的な研究の進展が期待される。鎌倉時代中期に遡る青表紙本七帖・河内本五帖は、伝本研究資料として極めて貴重であり、静嘉堂文庫に蔵される僚巻と合わせて得られる知見が多い。

常夏

朝顔

松風

桐壺

匂宮

御法

真木柱

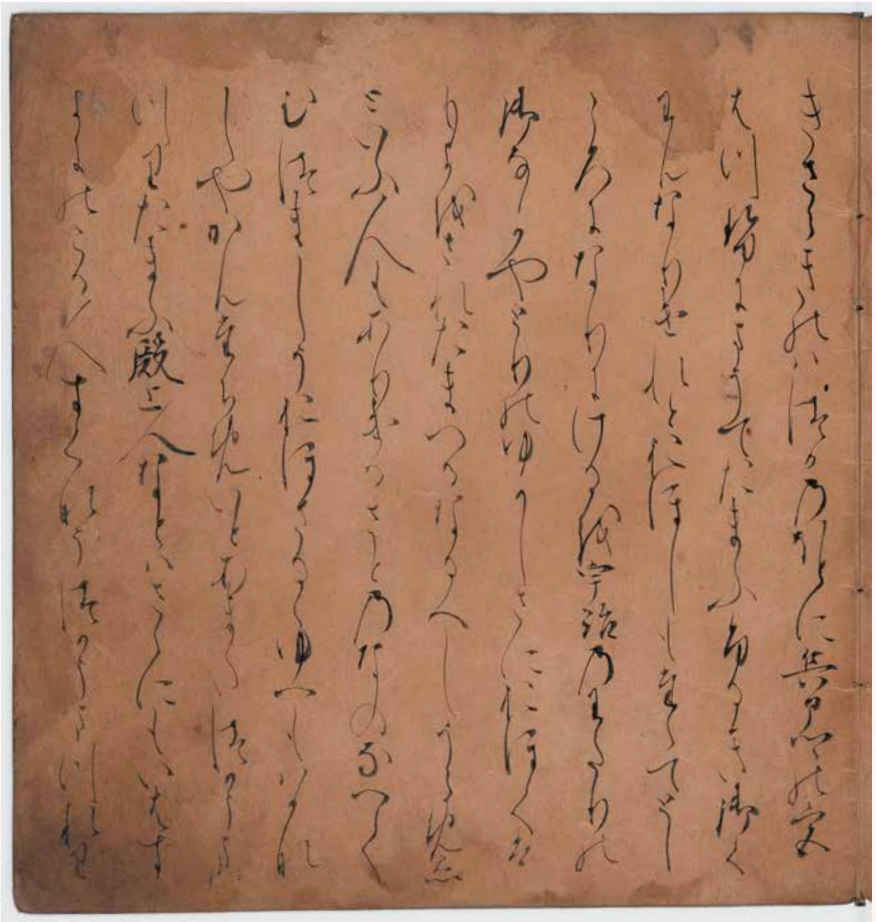
篝火

鈴虫

蓬生

橋姫

紅梅



源氏物語　伝為氏筆本

椎本一帖。伝為家筆本と同様、簡略な説明と校異提示のみがなされており、本文の具体的なあり方は今回の複製によって初めて明らかとなる。鎌倉時代中期の青表紙本として本文研究上の価値が高いのみならず、伝為氏筆本は打ち紙二枚貼り合わせと推される料紙を用い、また中世の一般的な六半升形本よりかなり大きいので、書誌学的にも興味深い伝本である。

【高精細カラー版】尊経閣善本影印集成の製作工程

❶ 原本撮影 ＊前田育徳会・八木書店

古典籍・古文書に最適な撮影技術を用いて、高精度なデジタル撮影を行い、可能な限り豊富な原本情報の再現を図る。

❷ レイアウト ＊八木書店

DTP ソフト（Adobe InDesign）を用いて、影印本文のトリミング・柱表示・ノンブル等の割付を行い、校正刷で確認の上、組版データを入稿。

❸ 製版～色校正 ＊天理時報社

撮影 RAW データを CMYK 4 版に変換し、高精度の印刷用画像を生成（イクオス・スーパーセル 260 線）。色調整を済ませて、本番に使用する印刷機・印刷用紙で全頁の校正刷を印刷。

❹ 原本照合 ＊前田育徳会・八木書店

原本と本紙色校正との色照合を実施。要調整箇所については校正刷に指示を記入。これを元に印刷用データを調整。

❺ 印刷 ＊天理時報社

最新のハイブリッド UV システムを使用。インキは UV 光照射による速乾性で、最終的な仕上がりを即時に確認可能。八木書店の担当者も立ち会い、点検・調整の上、印刷を進行。

❻ 製本 ＊博勝堂

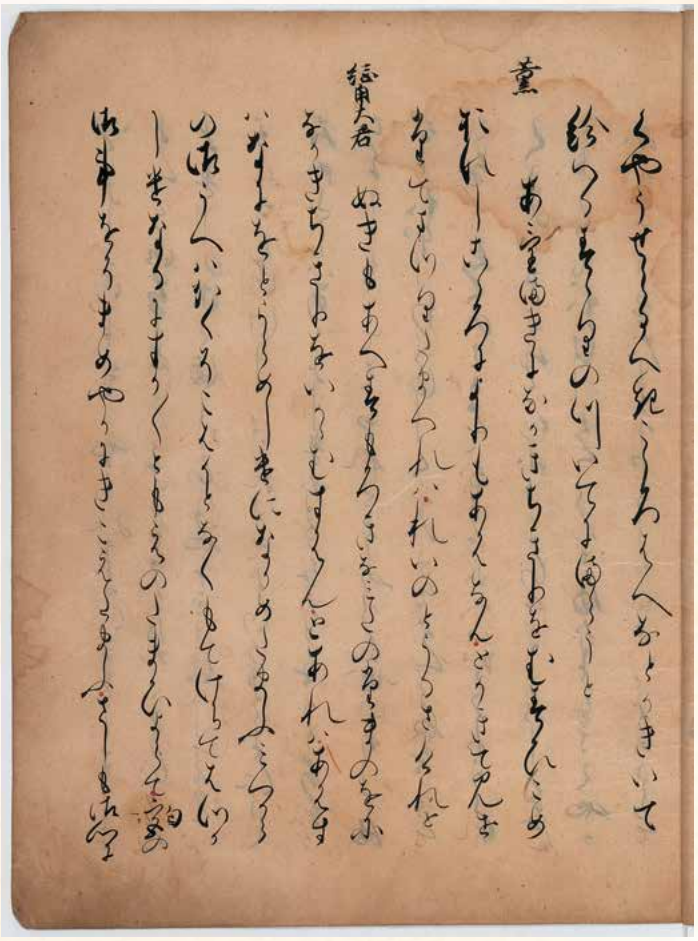
糸かがり、上製クロス装とし、日常の連用・長期保存に耐える堅牢な製本に。

四・五 伝国冬等筆本

〔解説〕久保木秀夫

特大の河内本、南北朝期写の宇治十帖のうち六帖

宇治十帖のうちの六帖分が伝存。総角巻のみ伝津守国冬筆、他の東屋・浮舟・蜻蛉・手習・夢浮橋巻は伝西山慈寛筆。南北朝時代を下らぬ書写。本文は河内本。『源氏物語大成』校異篇に採用されてはいるものの、書物としての姿を含めた全貌が明らかとなるのは今回が初。すなわち各帖縦三十二cmに届かんとする格別の大型本であり、そのような書型、また河内本の本文を有する点で、尾張徳川家旧蔵本や、近年注目を集める伝藤原為家筆本（零本・断簡として現存）との親近性・関連性が俄然注目されてくる。読解を助ける朱点や種々の注記も施されており、『源氏物語』をどのように読もうとし、読ませようとしていたのかも垣間見られるであろう、非常に有益にして示唆に富んだ古写本である。



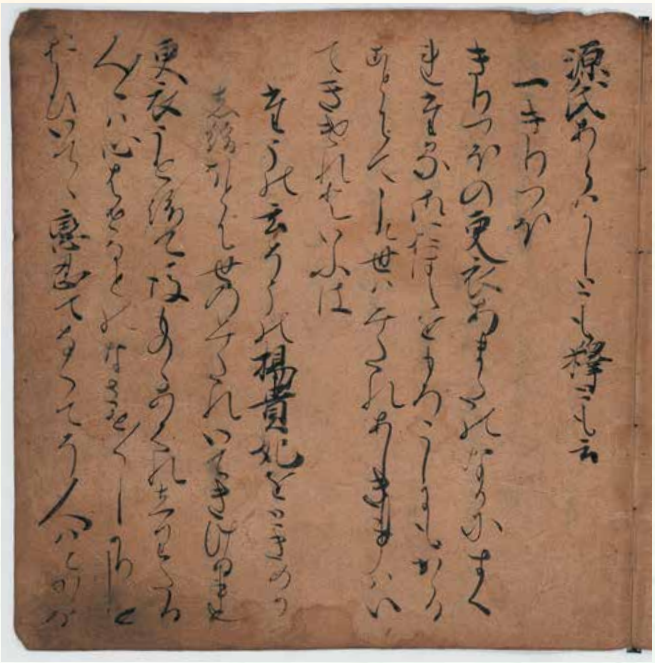
総角

六 源氏物語釈

〔解説〕久保木秀夫

現存最古の『源氏物語』注釈書、南北朝期写の重要古写本

藤原伊行による本書は現存最古の『源氏物語』注釈書。現存する伝本は実質四本のみであり、かつその四本のいずれにも多大な本文異同が存する。それらのうちの一本たる前田家本は伝二条為定筆の枡形本一帖、南北朝時代の書写であり、冷泉家時雨亭文庫蔵本と同じかほぼそれに次ぐ古写となる。しかも四本中で最も記載量が多いという点で性格や位置づけを巡っての議論も存し、絶対的な説を見ない。他本はさておき、前田家本それ自体でも、注の一部として和歌等が引かれるべきところで空行（欠落）状態になっていたり、明白な後補料紙が挿入されていてそこに脱落が存することが知られたりと、原本それ自体の姿を視認することによって初めて自覚化され問題化され得る箇所が随所に存する。今回の影印は『源氏物語釈（源氏釈）』に関するいっそうの厳密精緻な研究の進展をもたらし得るはずである。



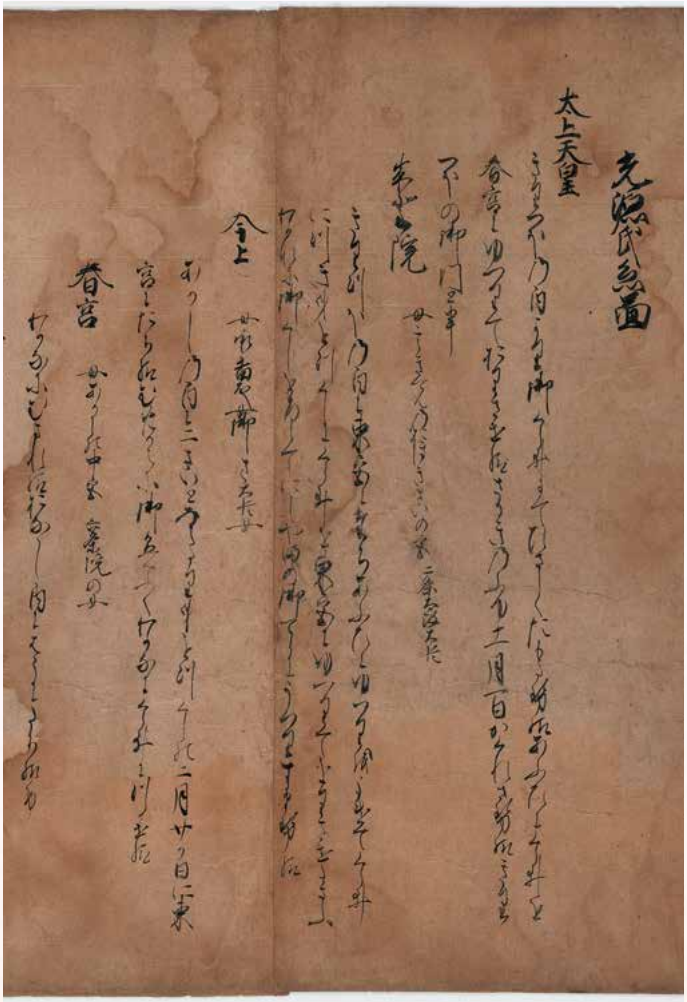
七 系図・原中最秘抄（げんちゅうさいひしょう）

〔解説〕伊倉史人

『源氏物語』の登場人物を系図に示した一本、鎌倉中期写

源氏物語系図

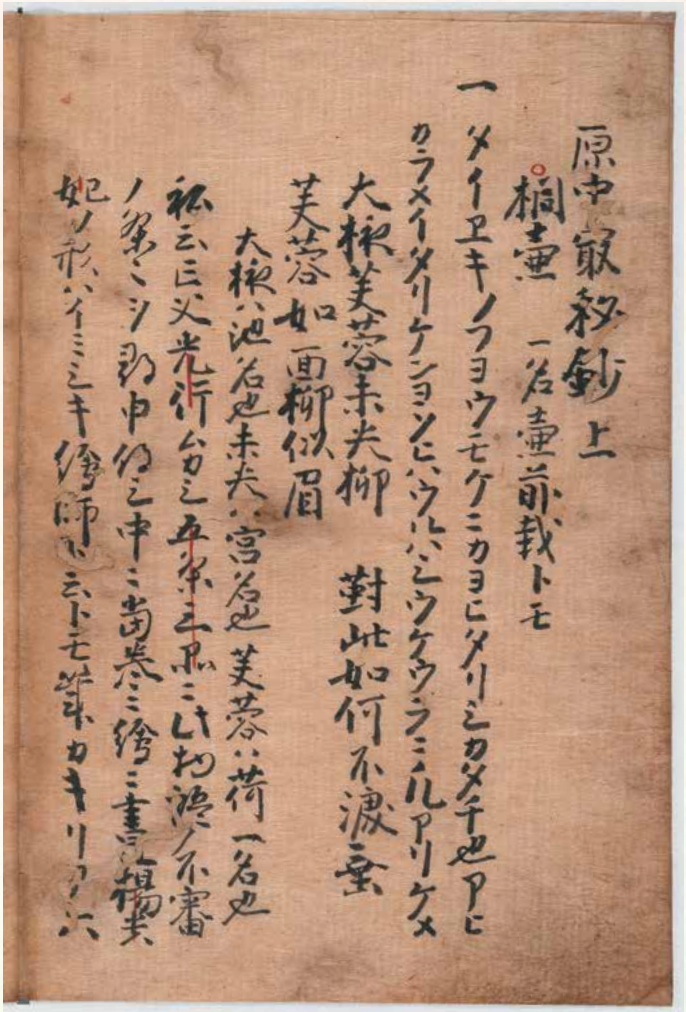
『源氏物語』の登場人物を系図形式で示す。三条西実隆が青表紙本系統の『源氏物語』に対応させるべく整備した系図以前に成立したものを古系図というが、本書も古系図のうちの一本。序文、「光源氏系図」「不入系図輩等」「此外有哥無名輩等」「きぬのいろを人ざまによりてさだめたる事」「人々のかたちをはなによそへたる事」「ゐどころの事」及び巻名目録から構成され、諸本中でもよく整備された伝本。所載人数は先行する九条家本（東海大学附属図書館桃園文庫蔵）に比して増補され、人物の名称も変更されている。鎌倉時代中期写。伝二条為氏筆。貞享二年（一六八五）冷泉為綱加証奥書本。『源氏物語大成』に翻刻がある。



河内方による『源氏物語』研究を集大成した注釈書、室町後期写

原中最秘抄

源光行の残した『水原抄』草稿（佚書）を子の親行がまとめ、孫の聖覚、曾孫の行阿等が加筆した河内方による『源氏物語』研究を集大成した注釈書。伝本には耕雲明魏（花山院長親）が抄出した略本系統と広本系統とが知られる。広本系統では、従来、阿波国文庫旧蔵本を底本とする『源氏物語大成』翻刻が多く用いられてきたが、同本は戦後徳島県立光慶図書館（現在徳島県立図書館）の火災にて焼失。金子元臣氏蔵本も戦火に失われ、現存する広本系統は国立歴史民俗博物館蔵本と本書のみ。両本は同時期の書写であるが、本書は歴博本の誤りを正すことができる点が少なくなく貴重。



尊経閣善本影印集成【第12輯 平安文学 全10冊】★定期予約・分売予約募集！

前田育徳会尊経閣文庫 編

【編集委員・解説】
伊倉史人・久保木秀夫・高田信敬

★高精細カラー版 ★3ヶ月毎配本・各冊分売可
★B5判（⑰⑱は菊倍判二段組）・上製・貼函入・平均約二六〇頁
★セット予価三三三、三〇〇円（本体三〇三、〇〇〇円＋税）
ISBN978-4-8406-2612-5（セット）
★各冊平均予価三三、三三〇円（本体三〇、三〇〇円＋税）

※ISBN下5桁↓

第6回配本〔2027年3月〕
⑬ 土佐日記 2393-3
予価二六、四〇〇円（本体二四、〇〇〇円＋税）

第5回配本〔2026年12月〕
⑱ 源氏物語三 伝為家筆本(二) 伝為氏筆本 2398-8
予価三〇、八〇〇円（本体二八、〇〇〇円＋税）

第2回配本〔2026年3月〕
⑭ 枕草子一 2394-0
予価三三、〇〇〇円（本体三〇、〇〇〇円＋税）

第7回配本〔2027年6月〕
⑲ 源氏物語四 伝国冬等筆本(一) 2399-5
予価四〇、七〇〇円（本体三七、〇〇〇円＋税）

第3回配本〔2026年6月〕
⑮ 枕草子二 2395-7
予価三七、四〇〇円（本体三四、〇〇〇円＋税）

第8回配本〔2027年9月〕
⑳ 源氏物語五 伝国冬等筆本(二) 2400-8
予価三六、三〇〇円（本体三三、〇〇〇円＋税）

第1回配本〔2025年12月〕
⑯ 源氏物語一 定家本 2396-4
予価二七、五〇〇円（本体二五、〇〇〇円＋税）

第10回配本〔2028年3月〕
㉑ 源氏物語六 源氏物語釈 2411-4
予価三三、〇〇〇円（本体三〇、〇〇〇円＋税）

第4回配本〔2026年9月〕
⑰ 源氏物語二 伝為家筆本(一) 2397-1
予価三〇、八〇〇円（本体二八、〇〇〇円＋税）

第9回配本〔2027年12月〕
㉒ 源氏物語七 系図・原中最秘抄 2412-1
予価三七、四〇〇円（本体三四、〇〇〇円＋税）

※冊次と配本順は異なります。
※各冊予価は2025年9月時点での設定です。
最新情報は小社WEBサイトでご確認ください。

尊経閣善本影印集成
Web サイト
⬇

【好評既刊】図書館・研究室必備のシリーズ！ ★各冊分売いたします

第1輯 儀式書 全12冊（モノクロ網目版） （セット品切） ISBN4-8406-2291-4
①～⑥西宮記／⑦～⑨北山抄（品切）／⑩～⑫江次第

第2輯 類書 全5冊（二色刷） （セット品切） ISBN4-8406-2292-2
⑬秘府略／⑭～⑯二中歴・掌中歴（⑭品切）／⑰拾芥抄（品切）

第3輯 古辞書 全8冊（二色刷） （セット品切） ISBN4-8406-2293-0
⑱⑲色葉字類抄（品切）／⑳節用集／㉑～㉔字鏡集／㉕温故知新書・童蒙頌韻

第4輯 古代史籍 全9冊（二色刷） セット定価 286,000円（10%税込） ISBN4-8406-2294-9
㉖日本書紀／㉗～㉙釈日本紀／㉚古事記／㉛古語拾遺／㉜～㉞類聚国史

第5輯 古代法制史料 全5冊（二色刷） セット定価 163,900円（10%税込） ISBN4-8406-2295-7
㉟交替式・法曹類林／㊱政事要略／㊲～㊴類聚三代格

第6輯 古代説話 全6冊（二色刷） セット定価 151,800円（10%税込） ISBN978-4-8406-2296-7
㊵日本霊異記／㊶三宝絵・日本往生極楽記／㊷新猿楽記／㊸三宝感応要略録／㊹江談抄／㊺中外抄

第7輯 平安鎌倉儀式書 全10冊（二色刷） セット定価 257,400円（10%税込） ISBN978-4-8406-2297-4
㊻内裏式／㊼本朝月令要文・小野宮故実旧例・年中行事秘抄／㊽雲図鈔／㊾無題号記録（『院御書』）・春玉秘抄／㊿春除目抄・京官除目次第・県召除目記／(51)禁秘御抄／(52)局中宝／(53)夕拝備急至要抄・参議要抄／(54)羽林要秘抄・上卿簡要抄／(55)消息礼事及書礼事・大臣二人為尊者儀・大要抄・大内抄・暇服事

第8輯 平安古記録 全11冊（高精細カラー版） セット定価 393,800円（10%税込） ISBN978-4-8406-2298-1
(56)～(64)小右記／(65)水左記／(66)台記〔宇槐記抄・宇槐雑抄・台記抄〕

第9輯 鎌倉室町古記録 全10冊（高精細カラー版） セット定価 398,200円（10%税込） ISBN978-4-8406-2299-8
(67)～(69)実躬卿記／(70)実躬卿記・宣陽門院御落飾記・後愚昧記（山門嗷訴記・実豊卿記）／(71)公秀公記・実隆公記・建治三年記／(72)外記日記新抄／(73)外記日記新抄・享禄二年外記日記／(74)(75)碧山日録／(76)蔗軒日録・盲聾記

第10輯 古文書 全12冊（高精細カラー版） セット定価 379,500円（10%税込） ISBN978-4-8406-2300-1
(77)武家手鑑 付旧武家手鑑／(78)～(88)尊経閣古文書纂 諸家文書・社寺文書・編年雑纂文書

第11輯 絵巻 全4冊（高精細カラー版） セット定価 134,200円（10%税込） ISBN978-4-8406-2611-8
(89)荏柄天神縁起／(90)(91)一遍聖絵／(92)豊明絵草紙・祭礼草紙（2025年9月完結）

※各輯在庫は2025年9月時点での情報です。
最新情報は小社WEBサイトでご確認ください。

八木書店
YAGI BOOK STORE LTD.
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8 ● E-mail pub@books-yagi.co.jp
● TEL 03-3291-2961［営業］ 03-3291-2969［編集］ ● FAX 03-3291-6300
● Web https://catalogue.books-yagi.co.jp/
〔2025.9.TP.18,000〕